

# 近現代の中国語、韓国・朝鮮語における日本語の影響 日本の漢字語の移入を中心に

金 光 林

## はじめに

周知のように日本語は漢字を中心に中国語から大きな影響を受けてきた。韓国・朝鮮語とは文法的にも語源的にも近親性のある言語であり、古代の朝鮮語が日本語に与えた影響も決して無視されるべきものではないし、日本の万葉仮名の成立は新羅の郷札と関係があると言われている。

ところが、近代にはいり、日本が東アジアにおいていち早く欧米の近代文明を導入したことにより、多くの近代用語が日本で新しい言葉として生成され、それが基本的には漢字語を中心に中国語に移入され、同じように韓国・朝鮮語にも日本で生成された漢字語が大量に移入された。もちろん、韓国・朝鮮語には漢字語だけではなく、日本による植民地支配という歴史背景の中で日本の固有語が移入されたことも多かったのであるが、戦後の韓国と北朝鮮における自国語の純化政策により、日本の固有語の影響はかなり少なくなった。それでも日本の漢字語は依然として現代の韓国・朝鮮語に根を下ろし、有効に使われることが多い。そして近代の日本で生成された漢字語は中国語と韓国・朝鮮語だけではなく、同じ漢字を使用していたベトナム語にも一部移入されたことも充分に考えられる。

また、現代においても日本で生成された漢字語が中国語と韓国・朝鮮語に移入されていることがある。例えば、「暴走族」などの「何々族」、「日照権」、「過労死」、「団地」、「宅配」、「蒸発」、「援助交際」などの新しい日本の漢字語が中国語と韓国・朝鮮語にそのまま移入されている。同時に「電腦」、「空調」、「洗脳」、「一辺倒」などの新しい中国語が日本語・韓国・朝鮮語に移入されることもある。近年は中国で作られた、韓国の大衆文化を指す新造語「韓流」が韓国と日本ですぐ認知されたりする。漢字語以外の言葉がこれらの言語の中でお互いに外来語として移入されることもあるが、漢字語だと比較的簡単に、抵抗感なしに中国語と日本語、韓国・朝鮮語の間で移入される現象は注目に値する。やはり漢字という共通の文字は、東アジアの漢字文化圏において重要な意味を持ち、相互

の言語の関連性において不可欠な要因となっている。

近代の日本で生成された漢字語<sup>1)</sup>の中国語への移入の問題はこれまで中国と日本の研究者たちによって多くの先行研究が行われてきたし、それなりの研究成果が出ている。

一方、韓国・朝鮮語においては、朝鮮が近代日本の強い影響と植民地支配を受けたことにより中国語以上に日本の漢字語の影響を受けたわけであるが、戦後の韓国と北朝鮮では日本による植民地支配の負の遺産を清算する目的から日本語の影響を極力排除する言語政策をとってきた。そのために、日本語の影響の否定的側面がより強調され、その影響を排除する自国語の純化作業に力点が置かれた。これは日本による植民地支配の負の遺産を清算する意味において至極当然なことであったが、一方においては日本の漢字語の影響の積極的な側面までも軽視されたことは否定できない。

本稿では、これまでの先行研究を参考にしながら、近現代の中国語、韓国・朝鮮語における日本語<sup>2)</sup>の影響をより総合的に考察し、その影響関係の中で主に漢字語がどういう働きをしてきたのかについて考えてみたい。

## 第一章 近現代の中国語における日本語の影響

### 1. 日本の漢字語の影響

日本の漢字語が中国語に大量に移入されたのは、19世紀末から20世紀初期であり、これは日本が中国に先駆けて欧米の近代文明を導入し、そのことによって中国語においてはまだ確立されていない多数の近代語が日本で外来語と同時に漢字語として生成され、それがちょうど中国語と同じ文字でできていたために、中国人がそれほど違和感と抵抗感を感じないまま、便宜的な用語として中国語に盛んに移入した<sup>3)</sup>。

- 
- 1) 近代の日本で生成され、中国語と韓国・朝鮮語に移入された漢字語については、必ずしも統一用語が用いられているわけではなく、研究者によって「和製漢語」「日本製漢語」「日本語借用語」など別々の用語で呼ばれている。本稿では、便宜上「日本の漢字語」と呼ぶことにしたい。
  - 2) 中国、韓国、日本の国語学界において、それぞれの言葉の近代・現代の時代区分が異なっている。中国語学界においては、晚唐五代（9世紀）から明末清初までの中国語を「近代漢語」、それ以降の中国語を「現代漢語」とする説が有力である。韓国語学界においては、18世紀初から甲午更張（1894）までを「近代韓国語」、それ以降を「現代韓国語」と呼ぶことが多い。日本語学界においては、江戸時代の日本語を「近代日本語」、明治時代以降を「現代日本語」と呼ぶことが多い。本稿では、論文の性格からして、近現代の中国語、韓国・朝鮮語の概念を東洋史の時代区分に合わせて便宜的に使用している。
  - 3) 近代における日本の漢字語の移入については、違和感・抵抗感が全くなかったわけではなく、一部の知識人から安易に日本風の漢字語を使う風潮に対する批判も出ていた。このことについては、沈国威著『近代日中語彙交流史 新漢語の生成と受容』（笠間書院、1994年）P. 50～56を参考。

中国人による日本の漢字語の移入は、幕末から明治初期に日本を訪れた中国の知識人や官吏・外交官らによって先に行われ、次に日清戦争（1895年）後に富国強兵の方策を求めて日本に渡った中国人留学生たちによって移入された。しかし、近代に生成された漢字語と言っても日本語から一方的に中国語へ移入されたわけではなく、近世から清末にかけて中国で刊行された漢訳洋書や英華辞典によって生成された新しい漢語が近代の日本語、韓国・朝鮮語、ベトナム語に移入されたことも指摘されている<sup>4)</sup>。このように近代の漢字語の移入が日本語と中国語の間で双方向で行われ、そもそも近代の日本の漢字語の語源も中国の古典語に由来する場合が多数であるため、近代の日本で生成された漢字語が中国語に多く移入されたことは大方の研究者によって認められながらも、具体的な場合に即して、どちらかの言語からの移入であるかという正確な弁別には常に困難が伴うのも事実である。

現在まで、日本の漢字語の中国語への移入について、中国の研究者たちから複数の語彙リストが出ている。その主な物に、余又蓀の論文「日訳学術名詞沿革」『文化與教育旬刊』69・70期、1935年）（日本の漢字語206語収録）、王立達の論文「現代漢語從日語借来的語彙」(『中国語文』1958年2月号)（日本の漢字語589語収録）、高名凱・劉正琰著『現代漢語外来詞研究』(1958年)（日本の漢字語459語収録）、高名凱・劉正琰・麦永乾・史有為編『漢語外来詞詞典』(1984年)（日本の漢字語892語収録）などである。研究者によって、それぞれ認定している日本の漢字語の数に違いはあるが、最低の場合でも数百語以上に及んでいる。以上の語彙リストには科学技術用語があまり収録されていないので、実際、科学技術用語まで計算に入れるとこれ以上の語彙になると見られる。

それでは、中国語に移入された日本の漢字語をその性質によって次の三つに分類し、その主な事例を列挙したい<sup>5)</sup>。

(1) 日本式漢字語（日本在来の漢字語で、中国でも使われなかった漢字語）

場合、場面、場所、便所、備品、武士道、舞台、貯蓄、調製、大本營、道具、不景気、服従、服務、被写、副食（物）、復習、破門、派出所、必要、保険、方針、表現、一覧表、人力車、解決、経験、権威、化粧品、希望、勤務、記録、個別、交換、克服、

4) 陳力衛著『和製漢語の形成とその展開』(汲水書院、2001年) P. 270~284。

5) ここでの三つの分類法と列挙する語彙リストは、高名凱・劉正琰著・鳥井克之訳『現代中国語における外来語研究』(関西大学出版部、1988年)を主に参考した。

故障、交通、共通、距離、命令、身分、見習、美濃紙、目標、内服、内容、認可、玩具、例外、連想、浪人、作物、作戦、三輪車、請求、接近、説教、節約、支部、支配、市場、執行、侵害、申請、支店、初步、症状、処女作、処刑、集団、宗教、出席、総計、倉庫、想像、体験、退却、但書、停戦、展開、手続、特別、特殊、取締、打消、話題、要素、要点、入口、覚書、貸方、借方、弓道、高利貸、興信所、茶道、柔術、立場、出口、肉弾、引渡、読物。

以上の漢字語は日本人が長い時間をかけて生成した漢字語であり、日本語から移入するまでは中国語にこのような漢字語の使用例がなく、「場合」「身分」「見習」「取締」「打消」などは漢字語と言っても純粋な日本語の発音と造語法に基づいて生成された言葉である。

- (2) 近代に改造された漢字語（近代に日本人が欧米の諸言語の言葉を翻訳する際、古代中国語の漢語をその意味に合わせて改造し、その改造された漢字語を中国語に移入した場合）

文学：『論語』「先進」篇、『論語』の「疏」（注釈）に出典があり、文章の意味。

文化：『説苑』「指武」篇などに出典があり、文治教化により、また法律などにより人民を平和に治め従わせる意味。

文明：『易経』「乾卦」「文言」篇に出典があり、物事の筋道が大いに明らかになる意味。

文法：『史記』に出典があり、法律や規則の類の意味。

分析：『漢書』『後漢書』に出典があり、物事を本体から分離する意味。

物理：『晋書』に出典があり、物事の道理の意味。

演説：『書経』「洪範」篇に出典があり、詳しく説明する意味。

諷刺：『文心彫龍』に出典があり、婉曲な語句によって、諷刺、当てこするの意味。

学士：『史記』に出典があり、学者を指し、魏晋六朝頃から中国の各朝廷の官職の名前。

芸術：『後漢書』『晋書』に出典があり、学問・技術の意味。

議決：『漢書』に出典があり、評議し、取り決める意味。

具体：『孟子』「公孫丑」篇に出典があり、内容が大体備わっているという意味。

博士：中国の歴代王朝に設置された官名であり、古今に通暁した人物を指した。

保険：『随書』「劉元進伝」などに出典があり、険要の地に立てこもることの意味。

封建：古代の天子が爵位と土地を諸侯に分け与え、その分封された区域に建国させる

ことの意味。

方面：『後漢書』に出典があり、方向の意味。

法律：『管子』に出典があり、法律政令とは官吏と人民の務めるべき規則や準則の意味。

法式：『史記』『管子』などに出典があり、法律と制度の意味。

保障：『左伝』などに出典があり、保護するために遮り覆ってくれるものの意味。

表情：『白虎通』に出典があり、顔つきや身ぶりで心情を表わす意味。

表象：『後漢書』に出典があり、表面に現れたしるしまたは姿の意味。

意味：唐の白居易、杜牧らの詩に出典があり、楽しむの意味。

自由：唐の杜甫の詩に出典があり、自分の意思に従って行うという意味。

住所：蘇舜欽の詩に出典があり、一般にいるところの意味。

会計：『孟子』に出典があり、出納の計算をする意味。

階級：『三国志』に出典があり、官位に階級があるという意味。

改造：『通鑑』『宋史』に出典があり、改めて選択する、または重ねて製造するという意味。

革命：『易経』に出典があり、王者の姓を変える、即ち王統を変えるという意味。

環境：『元史』に出典があり、周囲がめぐり囲まれている区域。

課程：『詩経』『元史』に出典があり、割り当てられた仕事や勉強の程度、または物品に課する税の程度

計画：『漢書』に出典があり、謀慮、たくらみの意味。

経理：『史記』『荀子』に出典があり、通常の筋道（常理）という意味。

経済：『宋史』に出典があり、民を治め、民を救うという意味。

権利：『史記』『灌夫伝』に出典があり、権力と利益の意味。

検討：中国の宋、明の時代の官名。

機械：『莊子』『淮南子』に出典があり、人のたくらみや巧智の意味。

機会：韓愈、蘇轍の詩と文に出典があり、事を行う適当な時機の意味。

機関：黄庭堅の詩、『鬼谷子』『易林』に出典があり、策略をめぐらす心、事の発動が仕掛けられたものの意味。

規則：李群玉の詩に出典があり、常に守るべき規範の意味。

抗議：『後漢書』に出典があり、正直な気持ちで論ずることの意味。

講義：経典の意味を解き明かした書物、または師が儒教について講学する時にそれらに関する学説を広く集めて著した書物。

故意：杜甫の詩に出典があり、昔馴染みの気持ちや心の意味。

- 交際：『孟子』「万章」篇に出典があり、礼儀と進物でもって相まじわるの意味。
- 交渉：範成大の詩に出典があり、関連の意味。
- 構造：『宋書』に出典があり、組み立てる意味。
- 教育：『孟子』「尽心」篇に出典があり、教え育てるの意味。
- 教授：『史記』に出典があり、道理を説くべを生徒に伝授すること。一方、漢代以来の中国の教育職の官名でもあった。
- 共和：中国の周の時代の年号。
- 労働：白居易の詩に出典があり、いたわり、感謝するの意味。
- 領会：向秀の賦に出典があり、暗黙の道理が相会得している意味。
- 流行：『孟子』に出典があり、水の流れ行くように遠くまで波及するという意味。
- 政治：『詩経』に出典があり、行政上で施行された一切の国を治める事の意味。
- 社会：『東京夢華録』『夢梁録』『二程全書』『貞観画史』などに出典があり、杜の神官や村里の人々が祭日がやってくるごとに会合を開き、神仏へのお礼参りをする意味。
- 進歩：『伝燈録』に出典があり、停止することなく一步一步前に進む意味。
- 信用：『左伝』『漢書』などに出典があり、信じて用いるの意味。
- 支持：柏梁の詩、杜甫の詩などに出典があり、つとめて保持するという意味。
- 思想：曹植の詩に出典があり、思慮するという意味。
- 自然：『老子』『淮南子』『晋子』などに出典があり、天然、ありのままの意味。
- 手段：『謝上蔡語録』に出典があり、事柄を処理する手立てをとるという意味。
- 主席：『史記』に出典があり、宴席を主宰する者の意味。
- 主食：『通鑑』に出典があり、天子の食事を主につかさどる役目の者の意味。
- 運動：董仲舒の『雨電対』に出典があり、めぐり動くの意味。
- 予算：耶律楚材の詩に出典があり、前もって計画を定めるという意味。
- 遊撃：中国の歴代の軍事将校の官名。
- 唯一（唯一）：『書経』に出典があり、もっぱら、ひたすらの意味。

以上の近代に日本人によって改造された漢字語の中には、中国ですでに使われていた意味と近似するか大差がないものもあり、例えば、「学士、博士、封建、方面、表象、自由、住所、革命、権利、機会、規則、講義、交際、構造、教授、政治、進歩、信用、自然、手段、投機、唯一」などがそうである。それでも全く同じ意味ではなく、やはり日本人がこれらの古くからの中国の漢語に近代用語として新しい意味を付与したと



言える。これら以外の、例えば、「分析、意味、環境、機械、抗議、故意、労働、社会、支持、主席、主食」などの漢字語は中国の漢語とはかなり違う意味で使われているし、よく知られている「文学、文化、文明、芸術」などの漢字語も中国の漢語とはニュアンスが違う。やはり、これらの漢字語はすでに古典の中の漢語ではなく、近代文明の中で新しく意味を付与された近代言語になったわけである。

- (3) 欧米の言語を意識した漢字語（明治期の日本で漢字の組み合わせにより欧米の言語を「意識」〔または部分的に意識〕し、さらにそれが中国語に移入された場合）

馬鈴薯、弁証法、美学、美術、美化、美感、微積分、傍証、物質、治外法権、蓄電池、直覚、調整、超短波、仲裁、抽象、代表、代理、代数、断交、談判、断定、瓦斯、脱党、電業、電力、伝播、電報、伝票、電流、伝染病、電車、電信、導電線、動機、動員、導火線、動向、独裁、独占、動脈、動脈硬化、動産、導体、液体、演繹、不動産、復員、概括、概念、概論、概算、学位、学期、学齡、劇場、現役、現実、現象、原則、下水道、議案、議員、議会、義務、技師、互惠、軍事、軍国主義、背景、配給、迫害、迫撃砲、博覧会、判断、反動、反映、反革命、判決、反応、反射、反対、破産、併発症、偏見、批判、批評、否決、引渡、否認、否定、法学、法医学、法人、法科、放射、保釈、放射線、保障、放送、法則、法廷、法定、方程式、表演、表決、一元論、医学、意志、意識、意図、自治、自白、自発的、人為的、人格、人生観、蒸発、情報、条件、蒸気、静脈、蒸留、科学、化学、解放、海事、改良、回収、潰瘍、改善、客観、幹部、関係、観念、管制、鑑定、借方、仮説、貸方、仮定、過渡、寡頭政治、刑法、警察、系統、経済学、結核、建築、企業、金額、金庫、帰納、交易、雇員、甲状腺、公開、根本的、拘留、交流、光線、公証人、肯定、組合、脚本、局限、供給、共産主義、休戦、命題、免除、未知数、民主、目的、目的物、無機、入場券、冷蔵庫、瀝青、歴史、列車、論理学、領土、領域、領海、緑化、領空、流体、最後通牒、最恵国、催眠術、催涙弾、索引、算術、三角（法）、作用、左翼、成分、生物学、政府、請願、制裁、政策、生産力、政党、制約、世界観、積極、専売、説明、社団、社会学、社交的、試験、新聞、信号、侵犯、進化、侵蝕、消防、消毒、商業、消費、商品、消化、消火器、消火栓、職員、消極、承認、消音器、集中、主義、集合、周波、主観、主権、周期、宿舍、主任、出版、出訴、出超、出廷、曹達（炭酸ソーダ）、即決、総合、総理、相对、総体、数学、对比、体育、退化、対応、体積、対象、对称、体操、単位、提案、定額、定義、提供、偵察、展望、展覧会、鉄道、哲学、投票、登記、特権、特許、特

徴、特務、得数、特約、突撃隊、右翼、要衝、予約、遊撃戦、遊撃隊、唯物論、唯物史観、唯我論、唯理論、唯神論、唯心論、有価証券、有機、財団、財務、材料、財政、前提、絶対。

以上の欧米言語を意識した漢字語は、そのほとんどが思想、観念、法律、制度、科学、技術、医学、芸術などに関わる近代の言語であり、元の欧米諸国の言語も古典語よりは近代文明の中で新しく生成された言葉が多いと思われ、これらの近代語彙を多くの場合、日本人が中国人、朝鮮人より先に近代的意味を持つ漢字語に意識し、それがさらに中国語、韓国・朝鮮語などに移入されたと思われる。

また、以上のような漢字語とは別に、近現代の中国語における主な接辞成分、例えば「～化」「～手」「～員」「～性」「反～」「超～」がいずれもそれらを造語要素とする日本の漢字語の借用によって確立されたものである。これらの接辞成分の借用以前に、中国語では、19世紀の英華辞書などにおいて、「～論」「～師」「～家」などの接辞成分が使われていたが、接辞成分の多用化は日本の漢字語の借用によるものである。

## 2. 日本の固有語の影響

日本の固有語の影響はそんな多くはない。主な事例を上げると、榻榻米(畳)、吉他(下駄)、奥巴桑(おばさん)・和歌、俳句、連歌、味素、浮世絵、仮名、狂言、能楽、歌舞伎、雅楽、昆布、猿楽、三味線、浄瑠璃、坪、株式会社、日和見主義、物語、和服、美濃紙など<sup>6)</sup>である。以上の言葉は、榻榻米(畳)、吉他(下駄)、昆布などは日本の固有語であるが、その発音に似た漢字を中国人が当て字、日本人が当て字に使った場合である。浮世絵、狂言、歌舞伎、猿楽、三味線、仮名・物語・俳句などは中国にない日本の絵画・芸能・文字・文学を漢字語で表現したものであり、味素・株式会社・日和見主義などは日本語の発音と漢字の意味の組み合わせによって生成された日本独特な漢字語である。

漢字が使われていて、日本の固有語と断定しにくい事例もあるが、その場合も日本の独特な文学・芸術を表現した用語であったり、日本語の発音と漢字の意味の組み合わせによって生成されているので、ここで取り上げた事例は基本的に日本の固有語の範疇に入ると考えられる。

<sup>6)</sup> ここで取り上げた日本の固有語の借用の事例は、高名凱・劉正燦著・鳥井克之訳『現代中国語における外来語研究』(関西大学出版部、1988年)、『漢語外来詞辞典』(上海辞書出版社、1984年)の「日本語借用語一覧」を主に参考した。



### 3. 日本語式外来語の影響

近代の中国語には日本語から漢字語、日本の固有語ばかりではなく、少数ではあるが日本語式の外来語も移入された。例えば、吋 (inch、現在では「英寸」を多用)、厩 (kilogramme、現在では「千克」を多用)、籽 (kilometer、現在では「千米」を多用)、瓦 (gramme、現在では「克」を多用)、糰 (centimeter、現在では「厘米」を多用)、哩 (mile、現在では「英里」を多用)、呎 (foot、現在では「英尺」を多用)、碼 (yard、現在でも使用)、水素、酸素、窒素、リンパ (リンパ) などの日本語において漢字の字音と意味を使って表記した外来語が中国語にもその意味とともに漢字も移入された。しかし、中国大陸では1950年代に政府の主導により化学元素などを示す新しい漢字の造字を行って化学元素の中国漢字化に成功し、日本語からきた水素・酸素などはそれ以降は使わなくなった。度量衡も新しい造語の使用により、日本から移入された漢字語はあまり使わなくなった。現在、使っているのは、瓦斯 (同じ意味で、現在では「煤氣」を多用)・リンパ・倶楽部など少数の日本語から移入した外来語である。すなわち、日本語の外来語は日本の固有語の場合と同じく、普通の漢字語のように近代の中国語に大量に移入されることはなかった。これは近代の韓国・朝鮮語において、酸素・水素・窒素など漢字に意識されたほとんどの化学元素の名前が日本の漢字と一緒に韓国・朝鮮語に移入され、また科学・技術・医療領域などにおいて、漢字に意識された多数の外来語がほぼそのまま朝鮮語に移入され、現在も韓国・朝鮮語において使用されていることとは違う展開である。

### 4. 現代中国語における日本語の影響

現代の中国語においては、どれぐらいの日本語が移入されているか、先行研究がほとんどないためにここでその全体像を見極めるのは難しい。それでも、よく知られているように、日本語の「カラオケ」が中国語に移入されて「卡拉OK」と呼ばれ、日本語の「～さん」を真似て、中国の大都会の知識人・若い人々の間で名字の後ろに「桑 (sang)」と付けていることもある。他にも、現代の日本で新しく生成されたか、またはその可能性が高い「何々族」(例えば「暴走族」)、「過労死」、「日照権」、「半導体」、「画素」、「温暖化」、「火災瓶」、「蒸発」、「援助交際」などの言葉が中国でも中国語と同じ感覚で使われている。また、筆者は香港のテレビが一昨年(2003年)のアメリカのイラクにおける軍事行動を報道する際、日本語風の「新聞最前線」という表現をするのを見たことがある。台湾と香港では中国大陸以上に現代の日本の漢字語を移入しているものと思われる。現に香港の言語学者から「営業中」、「準備中」の「～中」ような中国語にない

便利な用法を受け入れるべきだという提案も出ているという<sup>7)</sup>。

現代中国語における日本語の影響も日本の固有語、日本語式外来語よりは、日本の漢字語の影響がほとんどである考えられるし、現代においても漢字語が多く生成されている状況を考慮すれば、社会の諸分野の用語の中に日本語から移入された漢字語が意外と多く存在する可能性がある。特に科学技術分野の新しい用語の中に日本の漢字語の移入が多いと見られる。

それでも、近代に日本の漢字語が大量に中国語に移入されたことに比べると、現代においては、日本の漢字語の移入が顕著に減少している。これは、一つは現代の中国において、社会の発展とともに独自の新用語が大量に生成されており（特に近年はIT関係の新用語がたくさん生成されている、例えば、「網巴」〔ネットカフェ〕、「網民」〔ネッティズン〕、「下載」〔ダウンロード〕など）、それによって現代社会の用語を日本の漢字語の借用に頼る必要性が減少したこと、もう一つは近代とは異なり、現代においては日本では漢字による造語がかなり少なくなり、その代わり外来語・かな文字による造語がますます多くなってきたことに関連があると考えられる。

## 第二章 近現代の韓国・朝鮮語における日本語の影響

### 1. 日本の漢字語の影響

近代に日本の漢字語が大量に中国語に移入されたように、近代の韓国・朝鮮語にも日本語から大量の漢字語が移入された。そしてその数は中国語の場合よりさらに多いのである。その主な理由は、近代の朝鮮が基本的に日本を窓口に欧米文明を受け入れ、そのために欧米の近代言語を日本人が漢字語に作り変えたものが朝鮮人にも受容されやすかったこと、それに朝鮮も近代の初期まではハングル以上に漢字を記録の手段として使っていたので、日本の漢字語を受け入れるのに特に障碍がなかったこと、韓国・朝鮮語が文法の構造、語彙の造語法が日本語とかなり似ているために、中国人が使用に違和感を感じる漢字語も朝鮮人にはほとんど違和感を感じていないことなどである。例えば、「待合室」(中国語では「候車室」)、「組合」(中国語では「工会」)、「見習」(中国語では「実習」)、「品切」(中国語では「売光」「欠貨」)、「貸切」(中国語では「包租」)などの、明らかに日本語の造語法の特徴によって生成された用語であって、中国語としての使用に違和感を感じるものでも、韓国・朝鮮語としてはほとんど違和

7) 沈国威著「現代中国語における日本製漢語」『日本語学』(1993年7月号) P. 48～49。

感を感じないことが多い。これはやはり文法の近似性、造語法の近似性にも関係があると思われる。もちろん、近代の朝鮮が36年間も日本の植民地支配を受け、その歴史背景による日本語の影響も絶対に大きいはずである。

日本の漢字語の中で、すでにこの論文の中で列挙した中国語に移入された漢字語のほとんどが近代の韓国・朝鮮語にも移入された。また、ここで取り上げていない中にも、韓国・朝鮮語に移入された日本の漢字語がもっとたくさんあるはずである。

しかし、日本の漢字語が中国語に移入されたが、韓国・朝鮮語に移入されていない場合も少数ではあるが存在する。例えば、「場合」「貸方」「借方」などは韓国・朝鮮語では使っていない漢字語である。これは造語法の問題よりは言語の慣習によるものと思われる。

また、漢字語の語彙とは別に、造語法においても中国語の場合と同じように、韓国・朝鮮語における主な接辞成分、例えば「～化」「～手」「～員」「～性」「反～」「超～」などがいずれも日本の漢字語の借用によって確立されたものであり、現在、中国大陸ではあまり使われていない接辞成分「～中」は韓国・朝鮮語においてはすでに定着している。

## 2. 韓国・朝鮮語だけに移入された日本の漢字語

中国語に移入された漢字語、例えば「場合」「貸方」「借方」などが韓国・朝鮮語には移入されなかったが、一方、中国語に移入されなかった日本の漢字語が韓国・朝鮮語に移入されている場合がかなり多い。ここで、韓国の文化体育部編『国語純化用語資料集』(1997年)と韓国の文化体育部編『日本語式生活用語純化集』(1995年)から、その主な事例を拾い上げると次の通りである。( )の中は中国語であり、並べる順序は日本語の「あいうえお」の順による。

暗記(背) 医師(丈夫・医生) 言渡(宣告) 請負(承包) 埋立(填拓) 売上(銷售額) 売切(銷罄) 運転(開車) 映画(電影) 遠足(郊遊) 応援(声援・助威) 追越(追赴・赴上) 会社(公司) 家屋(房屋) 仮払(臨時支付) 仮処分(臨時處分) 加筆(修改) 仮建物(臨時建築) 仮契約(臨時建築) 開墾(開拓) 改札口(剪票處) 菓子(点心) 貸切(包租) 貸出(出租) 株式(股分) 看護(護理) 看板(招牌) 官庁(政府機關) 寄贈(捐贈) 記入(填表) 気分(情緒・心情) 綺羅星(燦星) 休憩(休息) 急行(快車) 給仕(服務員・勤雜) 牛乳(牛奶) 遊休地(有閑土地) 競技(比賽) 教壇(講壇) 勤務(服務) 景觀(景色) 景品(賞品) 激務(重労働) 下宿(公寓) 月給(月薪・薪水) 月賦(分期付款) 玄関(房

門口) 好調(順利) 古参(老手) 差入(送東西・送食物) 差出(發出) 差押(扣押) 砂糖(糖) 車掌(列車員・售票員) 写真(相片) 出荷(出貨・上市) 授業(講課) 主催(主弁) 食事(喫飯) 寝台(床) 生徒(学生) 石炭(煤) 卒業(畢業) 敷地(占地) 受領(領取) 受理(接受) 世帯(家庭) 切取(剪下) 送達(配送) 代金(貨款) 談合(商議) 注文(訂貨) 貯金(存款) 到着(到達) 手当(補貼) 手順(程序・順序) 手荷物(隨身行李) 名札(名牌) 入荷(進貨・到貨) 年賀状(賀年片) 能率(効率) 売店(小売店) 配達(送) 発売(出售) 払下(公家處理品) 飛行機(飛機) 分野(領域) 平和(和平) 便所(廁所) 没頭(埋頭) 不渡(拒付票據) 待合室(候車室) 満点(満分) 万年筆(鋼筆・自来水筆) 見本(様本) 見習(実習) 見積(估計) 無料(免費) 持分(份額) 野球(棒球) 役割(作用) 洋服(西装) 曜日(星期) 行先地(目的地) 輸入(進口) 輸出(出口) 呼出(呼叫) 陸橋(天橋高・架橋) 料金(費) 労賃(工資)

中国語には移入されずに、韓国・朝鮮語だけに移入された漢字語の事例は以上の資料だけではなく韓国と北朝鮮の漢字語辞書を詳しく調べれば、もっと多く見つかるはずである。

以上の日本の漢字語の中には、漢字語であっても日本の固有語とほとんど変わらないものも多い。例えば、「請負、売上、売切、差入、差押、受付」などは漢字を当ててはいるが、完全に日本語の発音によって構成されている言葉である。これが韓国・朝鮮語に移入される場合、その漢字の音読みだけが移されている。しかし、このような言葉は中国語にあまり馴染まず、中国語に移入されたのは「場合」など少数である。これは同じ漢字を使っている、韓国・朝鮮語の造語法が中国語より日本語により近いことを物語る。

現在、韓国では漢字語であっても、「哲学」「物理」「法律」などすでに完全に韓国語に定着し、代用案が見つからない言葉以外は可能な限り、言語政策機関が純化用語として指定した言葉を使うことを勧めているが、これも必ずしも思惑通りにしていない。例えば、「加筆/가필」は「고쳐쓰기」(直し書き) [見本/견본]は「본」(見習い) [見学/견학]は「보고배우기」(見て学び) 「景品/경품」は「덤상품」(追加商品) 「代金/대금」は「값」(お金)というように、純化して使うように指示されても一般の人々は本来の漢字語を使ってしまう。これは日本で国語関係の機関が外来語を日本語に置き換えて使うように勧告してもなかなかそういう置き換えの用語の使用が定着しないのと同じ性格のものである。

### 3. 日本の生活用語の影響

韓国の文化体育部編『日本語式生活用語純化集』(1995年)には、韓国文化体育部の言語政策諮問機関である国語審議会の国語純化文化委員会の審議議決を経て702語の語彙を日本語式生活用語として指定し、純化対象にした。

この中には、日本の漢字語259語、日本語式発音の欧米の外来語132語とともに、日本の固有語311語も指定されている。数字からみると、日本の固有語が漢字語よりも多いことになる。しかし、ここでいう日本の固有語も実質的には漢字語といえるものが多い。ここで、日本の固有語の韓国の生活用語としての主な使用例を挙げてみたい。

柄(紋様) ガリ版、蒲鋒、掛け持ち、かけうどん、肩(不良輩) 脚絆、缶詰、缶切、源平、勾配、五分、炬燵、鋤、蒟蒻、根性、生地、口紅、子分、土方、二分、盥、たま、たまねぎ、たくあん、たんどり、筆筍、梃子、電池、天婦羅、目地、餅、もんぺ、無鉄砲、弁当、皿、さしみ、桜、猿股(パンツ) 背広、煎餅、袖、鋤焼、刷り、素人、仕舞、新米、湿布、すり、おでん、襟、押ピン、帯、親分、おこし、割り箸、割り勘、わさび、賄賂、うどん、うめぼし、上着、半そで、籠、呼出、冷やかし。

以上の言葉には、「脚絆」(각반)以外は、完全に日本語の発音(「押ピン」の「ピン」は外来語)のまま使われており、日本の固有語であると言える。この中には「うどん」「もんぺ」「おでん」「鋤焼」「うめぼし」など、日本からの外来語として韓国・朝鮮語の中に定着したのもあり、戦前に日本の植民地支配下で日本語教育を受けた世代が段々減少するにつれて使われなくなっている言葉も増えている。韓国の言語政策機関が日本の生活用語の韓国語の置き換え例としてもっとも成功したのは、「弁当」を「도시락」という言葉に換えたことである。そのために、「弁当」は年配者を除けば、ほぼ死後になっている。それでも、日本で昨年に大ヒットした韓国のドラマ『冬のソナタ』の韓国語の台詞の中に「근초」(根性)という言葉が使われていたのを見れば、若い世代といっても無意識のうちに日本の生活用語をそのまま使っている場合がまだまだあると思われる。それでも、日本からの漢字語の移入に比べれば、日本の固有語の移入は大分少ないし、時間の経過とともにその数も減少している。

以上の他に、韓国でよく使われる言葉に「닭도리탕」(鶏スープ)「마메콩」(豆)「모치떡」(お餅)などがあるが、これには鶏、豆、餅という言葉が韓国語と日本語が二重に使われている。こういう使用例は多くはないが、韓国語に固有の言葉があるのに、同じ意味の日本語と二重に使うことによって一種の言葉の洒落みたいになったと思われる。

#### 4. 日本の専門用語の影響

韓国の文化体育部編『国語純化用語資料集』(1997年)には、正しい韓国語に純化して使うべき用語6,912語を上げられている。これらの純化すべき対象の用語には、日本語式の用語、欧米の外来語、難しい過ぎる漢字語、非規範的な言葉などが含まれ、その中には、日本語式の用語(ここでいう日本語式の用語とは、日本の固有語、日本式漢字語、日本語式発音の西欧の外来語などを指す)が大部分多く含まれている。ここでは、これらの用語を「建設用語」「美術用語」「縫製用語」「生活外来語」「選挙政治用語」「食生活用語」「新聞制作用語」「日本語式生活用語」「林業用語」「電算機用語」に分類している。韓国・朝鮮語の専門用語にいわゆる日本語式の用語が多いのは、近代の文明と科学技術の多数が日本を経由して朝鮮に入ったため、専門用語の多くが日本の専門用語の影響を受けたのであり、これらの専門用語は普通の生活用語より代替用語が見つかりにくいいため、長い期間そのまま使われている。韓国の文化体育部編『国語純化用語資料集』(1997年)には、あまりにも多くの日本の専門用語が含まれているので、ここでは具体的な事例を一つ取り上げることは省略したい。

#### 5. 日本語式外来語の影響

韓国文化体育部編『日本語式生活用語純化集』(1995年)に収録されている日本語式発音の西欧の外来語の主な使用例を上げると次の通りである。

カラー(日本語式発音「가라」、現在は「칼라」と表記、以下同じように記入する)  
ガソリン(日本語式発音「가소린」、現在は「휘발유/가솔린」と表記)、カタログ  
(日本語式発音「가타로그」、現在は「목록/설명서」と表記)、ゲラ(日本語式発音「게라」、現在は「교정쇄」と表記)、コップ(日本語式発音「고뿌」、現在は「잔/깃」と表記)、コンクリート(日本語式発音「공구리」、現在は「콘크리트/양회반죽」と表記)、クラブ(日本語式発音「구락부」、現在は「클럽」と表記)、ランニング(日本語式発音「난닝구」、現在は「러닝셔츠」と表記)、ナンバ(日本語式発音「남바」、現在は「넘버/번호」と表記)、リックサック(日本語式発音「니꾸사꾸」、現在は「배낭」と表記)、ダス(日本語式発音「다스」、現在は「12개/타」と表記)、タオル(日本語式発音「다오루」、現在は「수건/타올」と表記)、タンブカー(日本語式発音「단푸카」、現在は「덤프트럭/덤프차」と表記)、デンプラ(日本語式発音「뎀프라」、現在は「튀김」と表記)、ドラム(日本語式発音「도라무」、現在は「드럼통」と表記)、トラック(日本語式発音「도랏꾸」、現在は「트럭/짐차/화물차」と表記)、ダブル(日本語式発音「파불」、現在は「곱/잡질」と表記)、レール(日本語式発音



「레루」, 現在は「레일」と表記) レジャー(日本語式発音「레자」, 現在は「여가/레저」と表記) ロータリ(日本語式発音「로타리」, 現在は「로터리」と表記) リヤカー(日本語式発音「리아카」, 現在は「손수레」と表記) マフラー(日本語式発音「마후라」, 現在は「목도리」と表記) メロドラマ(日本語式発音「멜로」, 現在は「통속극」と表記) モーター(日本語式発音「모타」, 現在は「모터」と表記) ミシン(日本語式発音「미싱」, 現在は「재봉틀」と表記) バケツ(日本語式発音「바게쓰」, 現在は「양동이」と表記) バンド(日本語式発音「반도」, 現在は「밴드」と表記) バッテリー(日本語式発音「밧테리」, 現在は「배터리/축전지」と表記) バンガロー(日本語式発音「방가로」, 現在は「방갈로」と表記) ベニヤ(日本語式発音「베니아」, 現在は「합판/베니아」と表記) ボーナス(日本語式発音「보나스」, 現在は「상여금/보너스」と表記) ブローカー(日本語式発音「부로카」, 現在は「중개인/브로커」と表記) バック(日本語式発音「빠꾸」, 現在は「후진/뒤로」と表記) パンツ(日本語式発音「빤쓰」, 現在は「팬티」と表記) パンク(日本語式発音「뽕꾸」, 現在は「펑크」と表記) ポンプ(日本語式発音「뽕뿌」, 現在は「펌프」と表記) サラダ(日本語式発音「사라다」, 現在は「샐러드」と表記) シャッター(日本語式発音「샷타」, 現在は「셔터」と表記) センター(日本語式発音「센타」, 現在は「센터」と表記) スリッパ(日本語式発音「쓰레빠」, 現在は「실내화/슬리퍼」と表記) ズボン(日本語式発音「쓰봉」, 現在は「양복바지」と表記) アクセサリー(日本語式発音「악세사리」, 現在は「액세서리」と表記) アルバム(日本語式発音「알밤」, 現在は「사진첩/앨범」と表記) エキス(日本語式発音「에키스」, 現在は「진액」と表記) エプロン(日本語式発音「에프롱」, 現在は「앞치마」と表記) オーナー(日本語式発音「오나」, 現在は「소유주」と表記) オーバコート(日本語式発音「오바」, 現在は「외투/오버코트」と表記) ハンカチ(日本語式発音「한카치」, 現在は「손수건」と表記)。

以上の事例から分かることは、近代の韓国・朝鮮語においては確かに欧米の外来語が日本語式発音のまま移入された場合が多いということである。そのために、戦後になって韓国と北朝鮮ではこれらの無分別に移入された日本語式発音の欧米の外来語を純化する必要も確かに存在した。ここで、取り上げている韓国文化体育部編『日本語式生活用語純化集』(1995年)によると、韓国における日本語式外来語の純化の指針は、外来語の原語に近い発音で表記し、韓国語の発音の規則にも合わせることであり、外来語を濫用することを戒め、韓国語の固有の言葉か、漢字語に置き換えることである。

しかし、金希珍著「南北韓外来語の表記と使用実態」という論文から見ると、北朝

鮮では外来語の自国語への置き換えは積極的に行っているが、韓国で日本語式外来語として純化の対象にしているものをそのまま使っている場合が幾つもある。例えば、「タンク」(탱크)、「ラジオ」(라디오)、「コップ」(고뿌) テンプラ(뎀뿌라)などである<sup>8)</sup>。ここから北朝鮮では、韓国の場合と違い、日本語式外来語に対する純化をあまり進めなかったことが伺える。

## 6. 現代の韓国・朝鮮語における日本語の影響

以上のように近代の韓国・朝鮮語における日本語の影響を調べてきたわけであるが、それでは現代(1945年以降を指す)においては、日本語が韓国・朝鮮語にどのような影響を与えているだろうか。現代、特に1980年代から日本の漫画・アニメーション・小説・映画・ドラマが大分韓国に入り、韓国の若者たちに多くの影響を与えたと言われている。それであれば、現代の日本語から韓国語に移入された言葉は必ずしも少ないとは言えない。しかし、これに関する先行研究が管見のところではまだ見当たらず、その実態が把握しづらい。中国の場合と同じように、「暴走族」、「宅配」、「過労死」、「日照権」、「半導体」、「画素」、「団地」、「火炎瓶」、「蒸発」、「援助交際」などの現代の日本で生成された新しい漢字語が韓国でも使われていることは明らかであり、中国ではほとんど使われていない、「春闘」、「宅地」、「核家族」、「不快指数」、「知的所有権」(中国語では「知産権」)など、日本で生成されたか、日本で生成された可能性の高い漢字語が使われている。戦後、長い間日本が韓国より産業技術において優位を保っていたことを考えれば、日本で生成された産業技術に関する新しい漢字語が韓国語にけっこう移入されていることも考えられる。それにしても、近代にほぼ一方的に漢字語を中心とする日本語が韓国・朝鮮語に影響を与えたことに比べれば、戦後においてはこのような一方的な影響関係は通用しなくなり、現在の日本の「韓流」ブームに見られるように、これからはまさに双方向の影響関係の時代に入ると思われる。

中国語の場合と同じく、現代の韓国・朝鮮語においても、近代のように大量の漢字語が日本から移入されるようなことはなくなっている。中国語の場合よりは、日本の漢字語の移入が多いと考えられるが、それでも減少していることには間違いない。それは、韓国社会の発展により、北朝鮮の独自の社会体制により、漢字に由来する独自の新語が多く生成されていること(例えば、「爆弾酒」、「遠征出産」、「~ 廃人」、「白手」

<sup>8)</sup> 金希珍著「南北韓外来語の表記と使用実態」李玉蓮等編『南北韓言語研究』(図書出版パクイジョン、1998年) P. 41 ~ 114.

「首領」など中国語、日本語ではほとんど使用されていない漢字語) また韓国では漢字語より外来語と固有語に由来する新語がより多く生成され、北朝鮮でも漢字語よりは固有語に由来する新語が多くなっていることに関連があると思われる。

日本の固有語が現代の韓国・朝鮮語に新しく移入されることも近代に比べれば著しく減少している。現在、韓国語において使用されているものには、「津波」(쓰나미)「チラシ」(찌라시)「割り勘」(와리칸)などの類である。

近年、韓国の若者たちの間で、「간지난다」(感じがいい)「스고이」(凄い)「기레이」(綺麗)「가와이」(可愛い)などの日本語式の形容詞の使用が人気を集めていると言われるが、これは一時の流行であって、日本語からの外来語として韓国語に定着するかは疑問である。

## おわりに

本論文では、近現代の中国語と韓国・朝鮮語における日本語の影響についてより総合的に考察し、その中で特に近代に日本で生成された漢字語の働きについて究明しようとした。

近代の中国語、韓国・朝鮮語における日本語の影響については、先行研究が進み、研究資料も比較的揃っていたので、影響関係の凡その様相が考察できた。しかし、現代の中国語、韓国・朝鮮語における日本語の影響については先行研究の乏しさ、研究資料の不足により、その概略を把握する程度で終わった。

不十分な研究ではあるが、以上の研究を通して分かってきたことは、日本が東アジア諸国の中でいち早く近代化を達成していく過程で、漢字を使って欧米からの影響による近代用語を大量に生成し、これらの漢字語の近代用語が漢字という共通の文字を媒介に中国語、韓国・朝鮮語にほとんど違和感・抵抗感を受けずに受け入れられ、中国語と韓国・朝鮮語の近代語彙の形成に大きな役割を果たした。日本の漢字語が大量に中国語、韓国・朝鮮語に移入されたのに比べれば、日本の固有語、日本式外来語の中国語への影響はかなり少なかった。近代の韓国・朝鮮語における日本の固有語、日本式外来語の影響は大きかったのであるが、これは自然な言語間の影響関係というよりは、近代日本の韓国に対する植民地支配と密接な関係があった。

現代の中国語、韓国・朝鮮語における日本語の影響は、近代に比べればかなり減少している。これは、中国と韓国・北朝鮮の社会発展と独自の社会体制により、独自の現代用語が大量に生成されていること、日本と韓国・北朝鮮におけるいわゆる「漢字離れ」

によって、漢字語に由来する新語よりは外来語・固有語に由来する新語がより多くなっていることに直接な関連がある。

それにしても、日本が戦後も長い間、東アジア諸国において産業化が進んでいたことを考えると、特に科学技術、医療、建築など各種の専門分野においては、現代でも日本の漢字語の影響が決して少なくはないと考えられる。

### 参 考 文 献

- 沈国威著『近代日中語彙交流史 新漢語の生成と受容』、笠間書院、1994年  
陳力衛著『和製漢語の形成とその展開』、汲水書院、2001年  
高名凱・劉正琰著、鳥井克之訳『現代中国語における外来語研究』、関西大學出版部、1988年  
日本文化庁編『日本語と対応する漢語』、1978年  
米川明彦『明治・大正・昭和の新語・流行語辞典』、三省堂、2002年  
沈国威著「現代中国語における日本製漢語」『日本語学』、1993年7月号  
朴淑姫著『必ず直して使うべき我が言語の中の日本語』（韓国語版）、ハンウルリム、1996年  
韓国文化体育部編『国語純化用語資料集』（韓国語版）、1997年  
国立国語研究院編『国語純化資料集』（韓国語版）、2002年  
韓国文化体育部編『日本語式生活用語純化集』（韓国語版）、1995年  
李玉蓮等著『南北韓言語研究』（韓国語版）、図書出版パクイジョン、1998年  
鄭宗男著『北韓住民が知るべき南韓語彙3300語』（韓国語版）、鐘路書籍、2000年  
沈国威著「現代中国語における日本製漢語」『日本語学』、1993年7月号  
李漢燮著「現代韓国語における日本製漢語」『日本語学』、1993年7月号  
張元哉著「日韓異形・異義漢語から同形・同義漢語への変化 近代以降の日本製漢語を中心に」『日本語研究』第20号、2000年